



「北海道150年」プレ事業・「北海道みんなの日」記念 北方資料室所蔵資料特別展
「北海道の名付け親・松浦武四郎と『道みんなの日』」

幕末の探検家、松浦武四郎が蝦夷地の名称を「ほっかいどう（北加伊道）」とする提案をした日にちなみ、今年から7月17日が「北海道みんなの日」（「道みんなの日」）となりました。

これを記念して、7月・8月には、北方資料室が所蔵する松浦武四郎自筆書簡のほか、武四郎や北海道を知るための図書や雑誌など関連資料を展示しました。

（展示や「道みんなの日」関連事業の詳細は特集1でご紹介します。）

目 次

これ「戦略的な広報活動の展開を目指して」	1
特集1「道立図書館の『道みんなの日』」	3
特集2「道立図書館まつり」	5
道内図書館紹介「北見市立中央図書館・新館報告」	7
活動報告	
「平成29年度全道図書館新任職員研修会」	9
「平成29年度全道図書館中堅職員研修会」	10
「子ども向け書庫ツアー「図書館のヒミツをさがせ！」／新コーナー開設のお知らせ」	11
仕事紹介「道立図書館ではたらいています！～各課の1日～」	12
平成29年度上半期事業一覧	15
掲示版	16

に れ

「戦略的な広報活動の展開を目指して」

北海道立図書館長 成田 直彦

道立図書館では、現在、「図書館の図書館」「何でもわかる図書館」「道民みんなの図書館」という三つの柱からなる「運営の基本方針」の下、道民の生涯学習を支援する拠点の一つとして、図書館機能の充実に努め、広く道民サービスを展開することを目指しています。

今後とも、より利便性の高いサービスや魅力ある事業等を企画し、実施していかねばならないものと考えていますが、それと同時に、当館に対する道民からの認知度を高め、運営・施策への理解や参画・協力を得るとともに、資料（図書）の貸出やレファレンスなどの利活用、イベント等への参加などを一層促進する必要があります。

そのためには、当館の資料・情報、施設・設備、人（司書・利用者）に関する情報はもとより、これらを有機的に組み立てて行うサービス・事業などに関する情報を、現在の利用者や潜在的に利用者となり得る個人や市町村立図書館等に対し、次に述べる諸点に留意しながら広く効果的に発信すること＝広報＝が重要であると考えています。

まず、1点目は、広報の目的や内容、対象（ターゲット）に適合した手段・媒体を選択し、それらを最大限に活用することです。

ホームページやツイッターのほか、市町村立図書館等職員向けの図書館ポータルなどのネット系電子媒体と、広報紙やチラシ・ポスターなどの紙媒体を、波及効果や発信・配布先やエリア・場所などにも留意しつつ、使い分け又は併用すること、また、このような当館自らが保有する内部媒体に加え、マスメディアやミニコミなど受信者の多い外部媒体を積極的に活用すること、さらに、各種諸会議や研修会等での情報提供のほか、関係機関・団体との連携事業等の場合には、連携先からの多方面への情報発信なども有効と考えています。

2点目は、広報の内容・目的に応じて、事業等の事前・事中・事後など最も効果的な時期・タイミングに情報発信することです。

新たなサービスやイベント告知、参加者募集、長期間にわたる事業のPR、事業報告など内容に応じて、受信者が情報を受け取るのに最適な時期での発信のほか、複数回にわたる発信や、外部媒体を活用する場合には、実際の報道時期なども把握した上で情報提供するなど、意図的・計画的な広報が欠かせないと考えています。

3点目は、より多くの道民の目や耳に止まるよう、また、外部媒体に報道素材として取り上げてもらえるよう、発信する情報の見せ方・提供の仕方などを工夫することです。

情報のパッケージ化やビジュアル化のほか、インパクトのある簡潔な言語表現を用いることや、利用者の生の姿・声を伝えることなど、受信者の興味・関心を惹起する魅力的なイメージや情報価値を高める工夫が求められます。特に、外部媒体を活用する場合には、情報の新規性・独自性・特異性などアピールポイントを明確にするとともに、情報にメッセージ性

やストーリー性を持たせることのほか、広報資料の単なる送り込みだけではなく、場合によっては、直接、取材や記事掲載を依頼するなど積極的な働きかけも必要と考えています。

最後に、4点目は、効果的で持続可能な広報を行う上での前提というべきことですが、広報の必要性や重要性に対する職員の意識を確立し、取組体制を整備することです。

何より、広報を図書館サービス・事業を構成する要件としてしっかり位置付け、各職員が自ら広報担当者として情報発信していくという意識を持って自発的に行動することが肝要です。また、一方で、広報を、このような意識を持った職員集団の組織的な取組とし、それをマネジメントする体制を整備することも必要です。このことが、広報を一層活発化させるとともに、各職員にとっても、具体的な広報活動を通じて自らの業務内容の確認や振り返りを可能とするほか、業務へのやりがいや意欲の向上にもつながるものと考えています。

このような考えの下、当館では、広報に対する職員の意識化を図るとともに、組織的に対応するための一つの方策として、月間行事予定表の様式の中に、広報活動に取り組むべき事業等をチェックする欄を設け、予め職員全体で情報共有しているほか、全課で構成する「広報ワーキンググループ」を要項設置し、現在、広報内容と掲載媒体等からなるマトリクス一覧表や外部媒体に情報提供する際の共通書式などを含めた広報マニュアルの作成など、新たな取組を進めているところです。

以上のとおり、道立図書館としては、道民に開かれた、道民とともに歩む図書館を目指すためにも、利用者が当館にアクセスしてくるのを待つのではなく、広く丁寧に道民のニーズや知りたい情報の把握に努めるとともに、新たな情報発信ツールや媒体の開発・開拓にも取り組みながら、当館として「何ができるのか」「何をしているのか」「何をするのか」「何をしたいのか」という情報を発信する広報活動を、内容・方法の両面から、これまで以上に積極的かつ戦略的に展開していきたいと考えています。



北海道立図書館ツイッター
https://twitter.com/do_pref_lib

北海道立図書館ホームページ
<http://www.library.pref.hokkaido.jp/index.html>

道立図書館の「道みんなの日」

平成29年、北海道に新しい記念日が誕生しました。「北海道みんなの日」(愛称:道みんなの日)です。北海道のこれまでの歴史、文化や風土を見つめ直し、価値を再認識し、道民が一体となってより豊かな北海道を築いていく契機とすること、また北海道の魅力を発信する機会とするもので、幕末の探検家、松浦武四郎が蝦夷地の名称を「ほっかいどう(北加伊道)」とする提案をした日にちなみ、7月17日と定められました(北海道みんなの日条例(平成29年北海道条例第39号))。

道立図書館ではこれを記念し、関連事業として、松浦武四郎に関する所蔵資料展や、北海道の歴史・文化を伝える北方資料を御案内する書庫ツアーを実施しました。

■「北海道150年」プレ事業・「北海道みんなの日」記念 北方資料室所蔵資料特別展 「北海道の名付け親・松浦武四郎と『道みんなの日』」

7月・8月の2か月間、「北海道150年」と「道みんなの日」のキーパーソン松浦武四郎とその足跡を紹介する所蔵資料約50点の特別展示を行いました。

なかでも、武四郎直筆の書簡1通は、今展示の目玉として特別に御紹介したものです。

武四郎は生涯にわたって全国を歩き、蝦夷地には6回の調査に訪れました。中でも、安

政3(1856)年の4回目の調査は、幕府の雇いとなって初めての調査で、3月末から10月半ばにかけて箱館から日本海、樺太、オホーツク海、太平洋の各沿岸をまわる北蝦夷地の検分でした。

その旅が終わる頃に罹った病の悪化で、12月には死を覚悟する程の容態となりながら、強靱な

気力・体力で持ち直し、回復に向かう不惑

(40歳)の春、安政4年正月に、友人であった津藩の儒者野田竹溪(のだ ちくけい)

にあてて書いた手紙です。生死の際を彷徨いながらも新年を迎えられたこと、竹溪を訪ねてゆっくり旅の話をしたいことなどが書かれており、病の不安が和らいできたことで、少しずつ明るくなっていく武四郎の心持が感



松浦武四郎自筆書簡(左上)



武四郎やその著作・足跡を紹介する図書や雑誌

じられるようです。

このほか、木版刷りの『蝦夷漫画』（1859年）や『北海道国郡略図』（1869年）などの著作を展示したほか、蝦夷地調査の報告である『蝦夷日誌』や『東西蝦夷山川地理取調紀行』の解説や現代語訳資料と、「北海道」の名称選定の経緯を解説した資料も紹介しました。また、武四郎に関して、蝦夷地調査の際にアイヌの人々と寝食を共にする中で知った野草のこと、調査を行う旅の装備のこと、後年、全国各地の文物や骨董品を蒐集した趣味人としての側面に光を当てたものなど、様々な視点から彼の足跡や生涯を取り上げた図書や雑誌記事を展示しました。北方資料閲覧室では武四郎の伝記類や彼をモデルにした小説を展示し、手にとって借りて行かれる方も見られました。

武四郎の出生地である三重県松阪市の「松浦武四郎記念館」からは、武四郎についてわかりやすくまとめられたリーフレット（一般向け・子ども向け）2種を提供いただき、配布しました。夏休み期間中とも重なり、たくさんの来館者が持ち帰られたようでした。

■「北海道150年」プレ事業・「北海道みんなの日」記念 北方資料室書庫ツアー「あなたもタイムトリップ ～北方資料の世界～」

年2回開催する北方資料室書庫ツアーの1回目、北方資料を知る入門編として、7月22日（土）午後2時から開催し、2時間に渡るツアーに17名が御参加くださいました。

まず、道立図書館北方資料室が果たす役割や資料の収集について説明したあと、エントランスホールで開催中の特別展「北海道の名付け親・松浦武四郎と『道みんなの日』」の展示資料についても解説し、北方資料を収蔵する書庫内各所を御案内しました。



書庫内では、「北海道百年記念資料」や「札幌オリンピック冬季大会資料」などの特別コレクションを取り上げたところ、「珍しい」「懐かしい」との声がかけられました。パンフレットやちらし、絵葉書、市町村広報や市町村勢要覧など、北海道、旧樺太・千島に関するあらゆる資料を収集・保存していることに関心を持たれた様子で、好評のうちに終了しました。（北方資料室）

道立図書館まつり

■日時：平成29年7月30日（日）

昨年の「90周年道立図書館まつり」に引き続き、今年度も年に一度のおまつりとして、「道立図書館まつり」を開催しました。

昨年に引き続いて、道立教育研究所・理科教育センターにより、実験機材を満載した大型バス「サイエンスカー」の体験試乗会や、旧北海道庁立図書館を「札



幌本館」として店舗活用している北葉楼さんによるお菓子の販売ブースを設置しました。昨年同様参加してくださった北海道ブックシェアリングさんは、今回「100円古本市」を開催。いずれも多くの方に足を運んでいただきました。また、書庫ツアーや資料展示などもあわせて行いました。本稿では、今年度新たに実施した3事業について、ご紹介いたします。

なお、当日は昨年を上回る1,457名に来館していただきました。ありがとうございました。

【わんちゃんと一緒に絵本を楽しもう】

■場所：前庭

朝から晴天の中、午前11時、午後2時とも定員いっぱいの15名の参加者が集う中、セラピードックを中心とした優しいわんちゃんたちと芝生の上で絵本を一緒に楽しみました。

初めての試みでしたので、午前の部では参加者をどのわんちゃんのグループに入っていたかどうかなど、その場の対応を迫られることもありましたが、インストラクターの方や絵本読み手の方を中心に動いていただき、無事実施することができました。

午後の部では暑さも手伝ってか、わんちゃんたちもややお疲れ気味でしたが、参加者と一緒におとなしく絵本を楽しんでいました。

また、子どもの読み手の小学生も非常に上手で、聞いている子どもたちの真剣な眼差しや溢れるような素敵な笑顔がとても印象的でした。



【こわ～いおはなしタイム ～恐怖の図書館～】

■場所：第1書庫地層

夏といえば、やはり怪談ではないでしょうか。

開始の午前11時までに集合した参加希望者は、定員15名を越えて、なんと33名！！前半・後半に分かれ、地下の書庫で怪談を楽しんでいただきました。

幽霊や落ち武者の生首、骸骨や目玉を貼ったのれんなど、飾り付けはばっちり。歴史漂う地下の書庫は、何かが起きそうな雰囲気……。

その中で、まずは、出所不明な噂話の都市伝説「メリーさんの電話」などをお話しました。



次の怪談絵本の読み聞かせでは、毛利副館長の恐怖に満ちた語り口に、来場者からは「もう、しばらく天井見られないかも…」という声が上がっていました。

最後に道内のある港町での怪談「某海岸での恐怖体験」などを聞いていただき、ひんやりとした時間を楽しんでいただきました。

【埋文ワークショップ オリジナル土偶をつくろう！】

■場所：研修室

午後の研修室では土偶づくりのワークショップが開かれ、16組の親子が参加しました。講師は、北海道立埋蔵文化財センターで道内各地の遺跡調査や研究を行っている、坂本尚史先生です。

ワークショップはまず土偶の解説から始まり、写真やクイズを交えたわかりやすい説明で、土偶について詳しく知ることができました。解説の後はいよいよ土



偶づくりで、ウッディ粘土（乾くと木のような質感になる粘土）を型で土偶の形に整え、目や鼻を付けたりスプーンで模様を描いて、参加者それぞれの好みのデザインの土偶にしていきます。理想の土偶を目指して、子どもも大人も夢中になって取り組んでいました。

坂本先生によると、諸説ありますが、縄文時代の人々は叶えたい願いをこめて土偶を作ったとのこと。今回のワークショップで作られた土偶も、いつか皆さんの願いをかなえてくれるかもしれません。

(道立図書館まつりプロジェクトチーム)

北見市立中央図書館・新館報告

北見市立中央図書館 司書 川畑 恵美

平成27年12月23日に新築移転した北見市立中央図書館について、館の概要とオープン後の状況についてご報告させていただきます。



北見市立中央図書館 住所：北見市泉町1丁目2-21（JR北見駅南側）

延べ床面積4798.83㎡／蔵書数約50万冊（うち開架約30万冊）事業費：3,087,594千円

建設にあたっては、市民アンケートや建設検討委員会からの答申を反映し、オープンに向けて図書館システムを再構築しました。

建物の特徴

①カフェ併設

エントランスにカフェを併設しています。運営は市内企業を対象にした公募で決定しました。

②まちの交通結節点に立地

駅、バスターミナルとはいずれも歩道空間でつながっています。

③自然エネルギーを取り入れた空調システム

太陽光・地中熱・ペレットボイラーなどを活用した省エネルギー施設です。

④文学館併設

市内縁者から寄贈された斎藤茂吉関連資料を展示するブースを設けています。

オープン後の利用状況について

オープン初日は約4,200人が訪れ、市民の関心の高さを感じました。旧館での年間利用者は約11万2千人でしたが、オープン後は約35万4千人と3倍以上になり、特に中高生の利用が増えました。

サービスについて

新館建設のタイミングに合わせ、既存サービスの見直しに加えて様々な新規サービスを開始しました。システムの刷新、ICタグの導入、自動貸出機、読書通帳機電子書籍の貸出システムの導入、学校への宅配によるセット貸出、障がい者支援、視聴覚・音楽配信サービスの開始、青少年コーナーやビジネス図書コーナーの設置などなど、新しいことだらけで最初は戸惑いましたが、道立図書館をはじめとした道内図書館、日本各地の先進図書館を訪ね、たくさんの知恵と創意工夫を共有させて頂きながら何とかサービスを再構築していくことができました。

利便性の高い立地

今回の建設にあたり、中心市街地の活性化は重要なコンセプトの一つでした。行政の意図する賑わいと図書館が相容れるものなのか分かりませんでした。いざオープンしてみると図書館が交通結節点に立地することの強みを実感しています。学生や車のない高齢者などの利用が増え、利用者のすそ野が確実に広がりました。道内最大の面積を有し、最新の人口推計では2040年に半数以上が高齢者となる本市にとって、利便性の高い立地は今後のサービスを考える上で、数々の恩恵をもたらしてくれると期待しています。

人が集う、滞在型の図書館を目指して

1914年名塩良造氏の寄付によって開館した当館では、「駅の待合室的な雰囲気を利用しやすくし、知識を大衆のものにする工夫を」という氏の遺志を継ぎ、滞在型図書館というコンセプトを大切にしています。カフェがあり、お昼時には所蔵レコードを鑑賞でき、座り心地の異なるたくさんの椅子や学習室、本を読まなくてもぼんやりできる日当たり良好のソファもあります。また、子ども向け上映会、歴史映像観賞、レコード鑑賞、朗読会、名画鑑賞、講演、歴史講座、文章講座、原画展、工作、漫画ワークショップなど、オープン後1年間で64回のイベントを開催しました。

(写真) 声優・土田玲央さんの朗読会には中高生に人気でした。



「滞在型」というと受け身の印象ですが、十全に機能するには常に能動的に館の存在と魅力を発信し続ける必要があるのを実感しています。今後も本や図書館に関わる動向を注視しながら、地域にとって魅力的な知識のスポットとして活用いただけるよう、創意工夫していきたいと思っております。

平成29年度全道図書館新任職員研修会

この研修会は、図書館活動に必要な基本理念の理解及び基礎知識の習得を図ることを目的に、道内の公立図書館、公民館図書室、学校図書館等に勤務して1年未満の職員を対象として実施しています。定員50名に対し、60名の参加がありました。

北海道立図書館職員のほか、道内の図書館で活躍する職員を講師として迎え、図書館員としての心構えや、図書館現場の基本的な技術を学び、さらには各地の職員と交流を図る機会となりました。

また、事後課題のレポートを作成することで、各職場に戻ったあとの研修内容の定着を図っています。

■期 日：6月1日（木）～2日（金）

■会 場：北海道立図書館研修室

■参加人数：60名

■日 程

【1日目】

講義「公立図書館概論」

道立図書館利用サービス部長 伊藤 信彦

講義「資料収集」

和寒町立図書館司書係長 綾野 千佳 氏

情報交換

道立図書館総務企画部企画支援課主事 國安 華子

【2日目】

講義「著作権法 入門編」

道立図書館利用サービス部資料課長 一戸 泰

講義・演習「児童サービス」

由仁町ゆめつく館司書 池田 聡美 氏

講義「カウンターの仕事」

道立図書館総務企画部企画支援課主査 海藤 久仁子

講義・施設見学「道立図書館の使い方」

道立図書館北方資料室北方資料課主事 須田 希

■事後アンケートから

- ・実践でも大いに役立つ話だったので、参考になった。
- ・1コマ60分では短く感じるほど、ボリュームのある内容だと感じた。
- ・詳しい資料と講義内容でためになるものばかりだった。
- ・道立図書館のスタッフは話もわかりやすく知識豊富なのはもちろん、お堅いイメージがあったが、実は親しみやすかった。
(企画支援課)



平成29年度全道図書館中堅職員研修会

この研修会は、図書館運営・企画能力の向上、変化する図書館ニーズに対応できるスキルの習得を図ることを目的に、道内の公立図書館、公民館図書室、学校図書館等に勤務して3年以上の職員を対象として実施しています。

今回は、絵本・紙芝居の読み聞かせ（児童文学）、学校図書館、図書館グッズ作成（図書館PR）などをテーマに講義等を行いました。

講師による読み聞かせやイラスト作成（広報グッズ）の実演、学校図書館の現場を知る講師の実践紹介などが盛り込まれた本研修は



講師による紙芝居読み聞かせ実演の様子

「どの研修も大変中身が濃く、すぐに実践できそうな話をたくさん聞くことができた」などの声が寄せられ、好評のうちに終了しました。

■期 日：7月6日（木）～7日（金）

■会 場：北海道立図書館研修室

■参加人数：35名

■日 程

【1日目】

講義・演習「児童文学への招待 ～絵本・紙芝居～」

國學院大學北海道短期大学部 特別専任准教授 松村 澄絵 氏

講義・見学「みんなどうしてる!?～意外と知らない?地域資料の世界～」

道立図書館北方資料室北方資料課主査 原田 英明

【2日目】

講義「学びの場 学校図書館」

全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー 佐藤 敬子 氏

情報交換「学校図書館のニーズを知るために」

アドバイザー：全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー 佐藤 敬子 氏

講義「気軽に始める図書館グッズ ～PRに役立つ味方を増やそう～」

北海道武蔵女子短期大学附属図書館 徳田 祐子 氏

講義「接遇とレファレンス・インタビュー -? (はてな) に対応するコツ」

道立図書館利用サービス部利用サービス課企画主幹 工藤 嘉一

■事後アンケートから

- ・絵本の読み聞かせを改めて、紙芝居の効果については初めて講義で知った。
- ・学校図書館に関し詳しく講義を受けたのが初めてだったので、学校図書館法から実践の話と分かりやすく、イメージもしやすかった。
- ・図書館グッズに今まさに取り組もうとしているので、とても参考になった。（企画支援課）

活動報告

子ども向け図書館ツアー「図書館のヒミツをさがせ！」

「こどもの読書週間（4月23日（日）～5月12日（金）」に合わせて、子どもたちが本や図書館を身近に感じられるよう、いつもは入ることのできない書庫や事務スペースを含めた館内を巡るツアーを5月5日（金・祝）に開催しました。

当日は10名の参加があり、図書館で読みたい本を探す方法について説明を行った後、館長室での記念撮影、パネルシアターの実演、北海道に関する資料を扱っている「北方資料室」の見学など、イベントを取り混ぜながら館内を案内しました。書庫内では、電気で動く書架を実際に動かしてもらったり、自分の生まれた日の新聞を見てもらいました。また、閲覧室ではセルフ貸出機を使って実際に本を借りてもらったりなど、いろいろな体験を通じて、図書館への興味や親しみを感じてもらうツアーとなりました。

(利用サービス課)



活動報告

新コーナー開設のお知らせ（一般閲覧室・北方資料室）



一般閲覧室開架書庫の入り口に社史（会社が自社の歴史を記録した資料）のコーナーを設置しました。CMなどでもおなじみの一部上場大企業から、職人技や先進技術を誇る中小企業まで、昭和40年代以降に発行されたものを中心に約1,000点並べました。産業の歴史研究や、企業の参考にもご活用いただけます。さらに、右側奥の壁際には、漫画・コミック作品をまとめました。寄贈された資料を中心に、横山光輝、白土三平ら大家の作品をはじめ、約800点を並べています。「まんが・アニメ王国ほっかいど」¹として、北海道のまんが文化を図書館から応援する思いも込めたコーナーです。どうぞご家族でご利用ください。



また、中二階北方資料コーナー内には「北方大活字本コーナー」を新設しました。北海道在住作家や北海道が舞台となった作品の大活字本を集めています。三浦綾子や渡辺淳一などの名作を大きな活字で読むことができます。これらの資料は貸出しも行っています。

(利用サービス課・北方資料室)

道立図書館ではたらいっています！ ～各課の1日～

道立図書館は、全域サービスを行う道民みんなの図書館として、何でもわかる参考図書館として、図書館の図書館として、道民の生涯学習をサポートしています。

道立図書館には、全部で五つの課があり、図書館で行うさまざまなサービスをそれぞれの課で受け持っています。

・ ・ ・ ・ ・ 道立図書館 五つの課 ・ ・ ・ ・ ・

利用サービス部

■ 利用サービス課

閲覧室や各コーナー、書庫の管理、市町村への資料の貸し借り、調べものの相談を担当。

■ 資料課

収集する資料を選び、購入・寄贈により受け付け、装備する仕事を担当。

■ 北方資料課

北方資料の収集、受入れ、整理、貸し借り、北海道関係の調べ物の相談などを担当。

総務企画部

■ 管理課

職員や建物など、道立図書館全体の管理運営を担当。

■ 企画支援課

市町村の図書館（室）の活動支援や子ども読書活動の推進、各種研修会の企画運営などを担当。



今号では、資料課職員と利用サービス課職員の「ある一日」を、タイムスケジュールでご紹介します。
(次ページへ続く)

資料課のある一日

資料課は図書館の資料を選択して受入整理する課です。
資料課のある一日を、職場体験に来たぶっくんと一緒に見てみましょう。



ぶっくん

スタート

8:45
道立図書館にやってきました。
どんな仕事をしているのかな？



9:00
注文してあった本が
届いたので確認します。



11:00
購入決定した本を
注文します。



10:00
会議室で購入する本を決
めます。



9:15
新刊書などの出版
情報を調べます。



12:00
お昼休みに前庭の赤れんが
サイロに来てみたよ！

13:00
受入した本を新着図書
コーナーに並べます。



14:00
閲覧室で利用者に本の
場所を尋ねられました。



17:00
玄関の「本のリサイクル
ボックス」を確認します。



ゴール

17:30
今日は会議もあって
忙しい一日でした。
これからもがんばってね！



利用者サービス課のある一日

利用者サービス課はカウンターで本の貸出、返却をしたり、調べもののお手伝いをするほか、道内の図書館に本を貸し出したり、必要な時に必要な本をすぐ提供できるように書庫の中を整えたり、といった、本と来館者を結びつける仕事をしています。

そんな利用者サービス課の一日をのぞいてみましょう。

スタート

8:45 始業 開館準備
前日返却された本を書庫に運んだり、閲覧室の電気をつけたりします。



9:00 開館
午前中はカウンターの仕事です。貸出や返却、書庫から本を出したり、調べもののお手伝いをします。



12:00
お昼も図書館は開いています。カウンターの仕事は続きます。



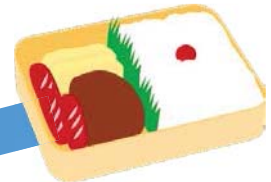
15:00
問い合わせの電話を受けました。



14:00
書庫から出した雑誌や新聞などを元の棚に片付けます。



13:00
ちょっと遅めのお昼ご飯。



17:00 閉館 閉館準備
本日返却された本を棚に戻します。



16:00
ページ外れなど壊れた本の修理をします。



ゴール

17:30
今日の仕事は終了です。

平成29年度上半期事業一覧

	事業名	開催日	開催場所	概要	参加人数	備考
1	平成29年度北海道図書館振興協議会第1回理事会・総会	平成29年4月20日	札幌市 (札幌市中央図書館)	北海津図書館振興協議会理事会、総会及び講話	36名	講話講師: 大久保 雅人氏(北海道教育大学非常勤講師)
2	こどもの読書週間特設展示「大型絵本100」	平成29年4月22日 ～5月14日	北海道立図書館	当館所蔵の大型絵本の紹介、展示	—	
3	子ども向け書庫ツアー	平成29年5月5日	北海道立図書館	子どもたちを普段は入れない書庫に案内し、図書館に親しんでもらう	4組10名	
4	平成29年度北海道読書推進運動協議会総会	平成29年5月25日	札幌市 (かでの2・7)	平成28年度報告、平成29年度計画など	7名	
5	全道図書館新任職員研修会	平成29年6月1日 ～6月2日	北海道立図書館	道内の図書館等勤務1年未満の職員を対象とした、新任職員向け研修	60名	
6	「北海道みんなの日」記念北方資料室所蔵資料特別展「北海道の名付け親・松浦武四郎と『道みんなの日』」	平成29年7月1日 ～8月30日	北海道立図書館	今年からはじまった「道みんなの日」を記念した、北海道の名付け親・松浦武四郎に関する展示	—	「北海道150年」プレ事業
7	全道図書館中堅職員研修会	平成29年7月6日 ～7月7日	北海道立図書館	道内の図書館等勤務3年以上の職員を対象とした、中堅職員向け研修	35名	
8	「てくてく、ぺったん！かるちやるスタンプラリー★」 (かるちやるnet主催事業)	平成29年7月15日 ～8月20日	北海道立図書館他	道立図書館を含むかるちやるnet参加施設を巡るスタンプラリーイベント	—	かるちやるnet (文化施設連絡協議会) http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/cultural-net/
9	北方資料室書庫ツアー「あなたもタイムトリップ ～北方資料の世界～」	平成29年7月22日	北海道立図書館	7月17日の「道みんなの日」にちなんで北方資料室書庫ツアー。書庫の案内と共に、北海道の歴史に関する資料を巡る。	17名	「北海道150年」プレ事業
10	道立図書館まつり	平成29年7月30日	北海道立図書館	親子連れなど道民が気軽に参加できる催しを実施し、子どもたちをはじめ道民により道立図書館に親しむ機会を提供し、道民の読書活動の活性化を図ることを目的とする。	1,457名	入館者: 1,457名
11	学校図書館職員スキルアップ講座(前期)「図書館を身近なものへ！」	平成29年8月10日	北海道立図書館	教職員や学校図書館関係者を対象とした、道立図書館を含む図書館の活用方法についての研修	32名	
12	「発見・体験 文化の夏一遊ぼう！学ぼう！あつべつ・えべつー」 (かるちやるnet主催事業)	平成29年8月11日	札幌市 (サンピアザ 光の広場)	大型絵本、しかけ絵本、なつかしの雑誌展示、クイズラリー、ワークショップ等の体験型イベント	—	かるちやるnet (文化施設連絡協議会) http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/cultural-net/
13	光の広場パネル展 (かるちやるnet主催事業)	平成29年8月12日 ～8月13日	札幌市 (サンピアザ 光の広場)	かるちやるnet参加施設の紹介パネル展	—	かるちやるnet (文化施設連絡協議会) http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/cultural-net/
14	第59回北海道図書館大会	平成29年9月7日 ～9月8日	江別市 (札幌学院大学)	特別講演、分科会、ブース展示等	244名	特別講演講師: 久野 和子氏(神戸女子大学文学部教育学科・准教授)
15	北方資料室書庫ツアー「北海道の名付け親・松浦武四郎を追って」	平成29年9月9日	北海道立図書館	来年の「北海道150年」にちなんで北方資料室書庫ツアー。書庫の案内と共に松浦武四郎の関連資料を巡る。	22名	「北海道150年」プレ事業

掲 示 板

<職員人事異動>

退 職 平成29年3月31日付け
館 長 吉 田 一 昭

転 出 平成29年4月1日付け
副 館 長 安 部 和 彦 (道立近代美術館副館長)

転 入 平成29年4月1日付け
館 長 成 田 直 彦 (教育職員局長)
副 館 長 毛 利 薫 (檜山教育局長)

北海道立図書館報 第203号

平成29年9月29日 発行

北海道立図書館長 成 田 直 彦

〒069-0834 江別市文京台東町41番地

TEL : 011-386-8521 (代 表)

ダイヤルイン

386-8531 (総務企画部)

386-8522 (利用サービス部)

386-8523 (北方資料室)

FAX : 011-386-6906

E-mail : support@library.pref.hokkaido.jp

ホームページ : <http://www.library.pref.hokkaido.jp>